西濃農林事務所の普及活動状況（令和８年 10 月）

今月の重点活動

■小麦　栽培研究会で講師を務める（９月 25 日）


【栽培研究会の様子】

農林事務所は海津市営農協議会が開催する小麦栽培研究会にて、小麦栽培管理技術と大豆の生育経過について情報提供を行った。今回の研究会は麦類生産技術向上事業（国補）の事業計画にも位置付けられた研修会で、農林事務所からは栽培技術に関する指導だけでなく、流通の仕組みや品質区分、実需者が求める品質など幅広い情報について解説した。栽培管理では小麦の品質向上に向けた施肥技術や近年問題となっている雑草の防除体系について詳しく説明し、事業を活用しながら、良質な海津市産小麦づくりに向けた意思統一を図った。

10 月末から小麦の播種作業がスタートし、令和９年産小麦栽培が本格化するため、農林事務所では定期的な巡回指導を行い、良質小麦の生産支援をしていく。

潜在力をフル活用した生産強化

■甘長ピーマン　コナジラミ類に効果が高かった天敵（９月 30 日）


【天敵放飼の状況】

今年度、ＪＡにしみの海津甘長部会で実証した天敵（スワルスキーカブリダニ）の実証結果について、農薬メーカーとともに２戸の農家を訪問し、天敵とコナジラミ類の調査結果と農薬散布実績を説明し、実証の効果や次年度の天敵導入意向などを確認した。

２戸の農家とも天敵導入の約 50 日後に天敵数がピークに達し、８月上旬まで天敵を確認することができた。また、コナジラミ類については、５月上旬に成虫の飛来が確認されたが、その後は増えることなくはなく、７月上旬までこの状態を維持でき、「よく効いた」との評価であった。さらに、天敵導入により農薬散布回数の削減（昨年度よりも２～３回）も実現できた。

１戸の農家では、来年は自費で天敵を導入したいとの意向があり、農林事務所は 10 月の研究会において実証結果を説明するとともに、天敵と農薬を組み合わせたＩＰＭ技術の普及を進めていく。

■いちご　JA にしみの海津いちご部会花芽検鏡結果研究会を開催（10 月１日）


【研究会の様子】

海津いちご部会は、花芽検鏡結果の検討を行うため研究会を開催し、今年の花芽分化に応じたいちごの栽培管理について検討を行った。

今年は、８月下旬から９月上中旬は低温傾向となり、昨年よりも花芽分化が進みやすい条件となった。昨年度は９月 27 日頃に約半数の株で花芽分化が確認できたところ、今年は９月 16 日頃には半数の株で確認できていた。10 月 1 日の再確認のための検鏡では、大部分の株でさらに分化が進んだがく片形成期に達し、10 月下旬には本格的に開花が始まる予想となった。このため生産者は、ハウス被覆などの作業を昨年より早く行うこととなった。

９月の低温傾向で軟弱徒長気味となっているため、農林事務所からは病害虫、中でも角斑細菌病やうどんこ病の発生に注意するよう促した。今後はマルチ張りの時期を決めるため、腋花房の検鏡を行い、結果を速やかに生産者に伝達していく。

■みかん　南濃みかん部会出荷説明会を開催（10 月３日）



【目揃えの様子】

ＪＡにしみの南濃みかん部会は、出荷説明会を開催し、みかんの出荷における注意事項や選別基準の確認等が行われた。部会員は、着色程度や大きさ、傷等の選別基準を確認し、良品質なみかんの出荷に向け意識統一を図った。

農林事務所からは収穫作業時のみかんの取り扱いに関する注意点や礼肥えの施用方法、カメムシの防除対策等について情報提供を行った。

産地では、産地の維持、担い手の確保・育成を目的に海津市を事務局とし、部会、ＪＡ、農林事務所が協力し、アグリパーク事業に取り組んでいる。農林事務所では、栽培技術指導等を通し、引き続きみかん生産者に対して支援していく。

■加工業務用キャベツ　ほ場巡回を実施（10月13～14日）



【キャベツのほ場巡回】

農林事務所はＪＡにしみのＴＡＣ室及びＪＡ全農岐阜営農対策課の担当者と管内の加工業務用キャベツほ場を巡回し、生育状況や病害虫の発生状況を確認した。

今年は定植時期に雨が多く、苗の定植が遅れたり、細菌病の発生が見られたものの、10 月が温暖で経過したため、概ね順調に生育している。

農林事務所では、高品質な加工業務用キャベツの生産に向け、農業者や関係機関と連携し、生産振興を支援していく。

新たな流通ルートの開拓、販路拡大

■教育機関との連携　ハツシモのリブランディング（10 月８日）



【グループワークの様子】

大垣養老高校で県産米「ハツシモ」のリブランディングを考える「若者未来デザイン会議専科」の第２回授業が行われた。今回は農林事務所、ＪＡにしみの、高校生で６～７人のグループを作り、農林事務所はＪＡと共にファシリテーターを務め、ハツシモを売り込むターゲットやセールスポイントなどについて話し合った。

また、グループごとのテーマに基づき、ハツシモ消費拡大のためのキャッチコピーを考え、12 月にはポスターを作成し発表する予定としている。農林事務所は今後も高校と連携し支援していく。

安心できる農畜水産業と農村の環境整備

■水稲採種ほ　ハツシモ岐阜ＳＬ採種ほの収穫始まる（10 月 13 日～）



【収穫作業の様子】

大垣市の(農)大垣南では「ハツシモ岐阜 SL」約９ha の種子生産を行っており、10 月中旬に登熟期を迎え収穫作業が始まった。農林事務所では採種ほの栽培管理指導や出穂期・糊熟期のほ場審査を行ってきた。

今年は、９月に長雨・日照不足となったため倒伏のリスクもあったが、ザルビオを活用した可変施肥を行うなど丁寧な肥培管理を実施したところ、生育は良く揃い、倒伏も少なく収穫作業は順調に行われた。

今後は、収穫された種籾の生産物審査（発芽試験）を行う予定であり、農林事務所では、良質な種子生産に向けて継続的な支援していく。